このたびは、シチズンウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申しあげます。なお、この取扱説明書は大切に保存し必要に応じてご覧ください。

安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

⚠	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

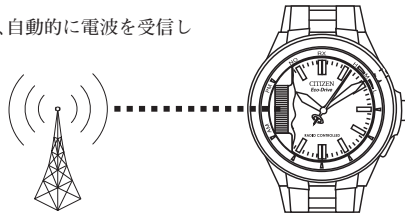
■ご使用になる前にお確かめください■

■受信について覚えてください■

定時受信

毎日午前２時と４時の決まった時間に、自動的に電波を受信し時刻を合せます。

《受信の方法》

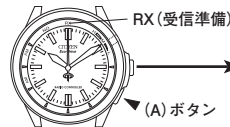
時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いて受信してください。

《受信の確認》

正しく受信したかどうかは、受信後、4時位置にある(A)ボタンを押し受信結果を確認してください。秒針が「H, MまたはL」を指した場合は、受信が正しくできたことをお知らせしています。そのままご使用ください。
秒針が「NO」を指した場合は、受信ができなかったことをお知らせしています。強制受信を行ってください。

強制受信

いつでも受信できます。受信環境等が変わり、定時受信等ができなかった場合に行ってください。**強制受信中は電波を確実に受信させるため時計を動かさないでください。**(最大15分お待ちください。)

《受信の手順》

1. ４時位置にある(A)ボタンを約２秒以上押し、秒針がRX/受信準備(12時位置)に移動したことを確認し、指を離してください。
2. その後(1分以内)、秒針がRXから受信中を示す受信レベル「H, MまたはL」に移動します。
3. 受信が完了すると、秒針が「H, MまたはL」から1秒運針に移行します。

＊詳しい受信の仕方は、本文の「3. 電波の受信方法」をご参照ください。

■光が当たらない場所で長期間保管した場合は■

１週間以上時計に光が当たらない場所で保管すると、パワーセーブ（節電機能）が働き各針が12時位置で停止します。
パワーセーブ状態でも定時受信が行われて、時計内部は正確な時刻に修正されますが、保管状態によっては定時受信ができず、時刻修正ができないことがあります。
再度ご使用いただく場合は、光を当てパワーセーブを解除し、強制受信を行ってからご使用ください。
＊パワーセーブについては、本文の「6. A. パワーセーブ機能について」をご参照ください。

目　次

1. 商品の特徴

この時計は、日本国内の局の電波送信所（福島局と九州局）から送信される、標準電波（時刻情報）の強い局を自動的に選んで受信し、時刻を自動修正する電波時計です。また、光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させる光発電機能を持ったエコドライブ電波時計です。ソーラーセルに光が当たっていないときの時計の電力消費を抑えるパワーセーブ機能等も搭載しています。

【りゅうずの操作方法】

〈ねじロック式りゅうずの場合〉

りゅうずがねじロック式りゅうずの場合は、りゅうずを左に回してねじをゆるめてから操作を行い、操作が終わりましたらりゅうずを通常位置に戻した後、りゅうずを押しながら右に回してねじをきちんと締めてください。ねじ締めが不十分だと部品の破損や防水不良の原因となりますのでご注意ください。

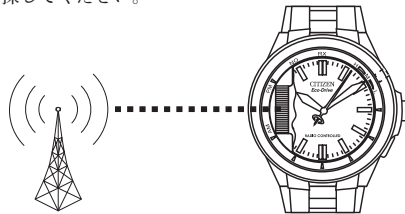
〈りゅうずの連続回転のやり方〉

りゅうずを右または左に素早く２クリックする。→ 針（時針、分針または秒針）が右または左に連続で動きます。

2. ご使用になる前に

A. 電波受信機能について

〈上手に受信をするために〉

この時計は、ケース内部（９時位置）に、電波受信用のアンテナが組込まれています。上手に受信するためには、時計の９時位置を電波送信所の方向に向けて受信するのが理想です。使用環境で受信レベルが変わってきます。時計の受信レベル「H, M, L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所及び、方向を探してください。

- 安定した受信をするために、時計を腕から外して、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。受信中は時計を動かさないでください。
- 電波は、金属のしゃへい物や環境により受信しにくいことがあります。建物内などでは、できるだけ窓の近くで受信してください。
- ２局の電波送信所（おおたかどや山標準電波送信所／福島局と、はがね山標準電波送信所／九州局）からの距離に差がない中部地方や、東海地方においては、選択受信局が頻繁に切り替わる可能性があり、通常より受信時間が長くなることがあります。

〈受信が困難な場所について〉

次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では、電波を正確に受信できないことがあります。

(1) 極端に高温や低温の場所。
(2) 鉄筋コンクリート建物の中、高層ビルや山などの谷間、地下。
(3) 車、電車、飛行機の中。
(4) 高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く。
(5) 通話中の携帯電話の近く。
(6) テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く。

3. 電波の受信方法

電波の受信方法は**定時受信、強制受信、復活自動受信**の３つの方法があります。電波を正しく受信すると自動的に時刻が修正されます。
受信が完了すると、各針は受信した時刻へ、正転または、逆転で移動します。

A. 受信の仕方

1. 定時受信

毎日午前２時と４時の２回、秒針が「RX：受信準備」に移動した後（１分以内）受信中を示す「H, MまたはL」に移動し自動的に受信を始めます。

《受信の方法》

- 時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方に向け、窓際等の電波を受信し易い安定した場所に置いて受信してください。午前２時と４時の２回、自動的に電波を受信します。

2. 強制受信

時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方に向け、窓際等の電波を受信し易い安定した場所に置いて受信してください。

4時位置にある(A)ボタンを約2秒以上押すと、受信を始めます。

＊強制受信中は秒針が1秒運針するまで時計を動かさないでください。

《受信の手順》

1. 4時位置にある(A)ボタンを約2秒以上押し、秒針が「RX：受信準備(12時位置)」に移動したことを確認し指を離します。
2. 9時位置を電波送信所の方に向け、窓際等の電波を受信し易い安定した場所に置いてください。
3. その後(1分以内)、秒針がRXから受信中を示す「H、M、またはL」に移動します。
4. 受信が完了すると、秒針が「H、M、またはL」から1秒運針に移行します。

3. 復活自動受信

万一、充電不足で時計が止まった後、時計に光を当て十分に充電されると、1度だけ自動的に受信を行います。

尚、復活自動受信するまで日光下で充電を行っても最短で約1時間かかります。充電不足にならない様、常に充電を心掛けてご使用ください。

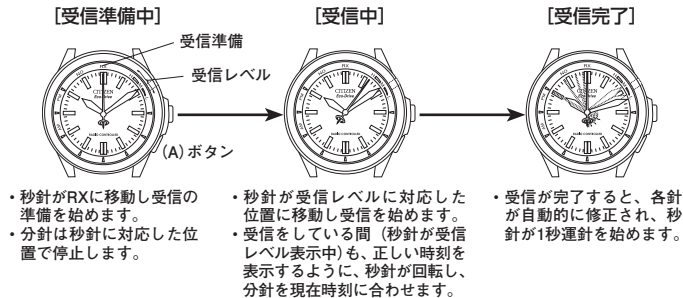
《受信の方法》

• 9時位置を電波送信所の方に向け、窓際等の直射日光が当たり、且つ電波を受信し易い安定した場所に置いて受信してください。

B. 受信中の秒針の位置

・秒針がRXに移動し受信の準備を始めます。
・分針は秒針に対応した位置で停止します。

・秒針が受信レベルに対応した位置に移動し受信を始めます。
・受信をしている間（秒針が受信レベル表示中）も、正しい時刻を表示するように、秒針が回転し、分針を現在時刻に合わせます。

・受信が完了すると、各針が自動的に修正され、秒針が1秒運針を始めます。

注意：受信中まれに受信局が切り替わり、秒針が「RX：受信準備」に移動し再度受信を開始する場合があります。

〈受信に要する時間〉

受信にかかる時間は、約２～13分です。但し、受信中に受信局の自動切り替えが行われると、最大約15分かかります。受信環境が悪く受信出来なかった場合は約60秒で通常表示に戻ることがあります。

注意：受信中は、秒針が「RX：受信準備」から、「H、MまたはL：受信レベル」に移動します。**受信が完了すると、秒針が1秒運針に戻ります。1秒運針するまで時計を動かさないでください。**

C. 受信結果の確認方法

- 受信完了後、(A)ボタンを１回押すと、秒針が高速で「H、M、L または、NO」へ移動し受信結果が確認できます。

注意: (A)ボタンを２秒以上押し続けると、強制受信を開始しますのでご注意ください。

- 受信結果は10秒間表示し、自動的に現在時刻に戻ります。また、表示中に(A)ボタンを押しても現在時刻に戻ります。
- 電波受信後に(B)ボタン、又はりゅうず操作を行うと前回の受信が成功し秒針が「H、M またはL」を指していた場合でも受信結果を確認すると「NO」に切り替わります。

《受信結果》

- 受信が成功すると：受信結果にもとづいて、自動的に時刻を修正し、1秒運針を始めます。
- 受信に失敗すると：受信前の時刻表示から、受信にかかった時間を追加した時刻に戻り、１秒運針を始めます。

D. 受信レベルと受信結果

- 電波受信中は、受信状況に対応した受信位置に秒針が待機して、受信レベルを表示します。受信後は(A)ボタンを１回押すと、受信結果が確認できます。

＊「H、M、L」は受信レベルを指すものであり、性能には影響はありません。

受信レベル	秒針の位置	受信中レベルおよび受信結果
H	6秒位置	受信環境が非常に良い状態で受信中または受信したとき
M	9秒位置	受信環境が良い状態で電波を受信中または受信したとき
L	12秒位置	受信環境が良くない状態で電波を受信中または受信したとき
NO	55秒位置	受信に失敗したとき

E. 受信可能地域の目安

この時計は、標準電波の自動選局機能つきです。受信可能地域の目安は次の通りです。
ただし、時間帯や季節変化、天候(雷など)などにより、電波状況が変化し受信可能地域が変化する場合があります。
受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

〈電波送信所〉

- おおたかどや山標準電波送信所(福島局)
- はがね山標準電波送信所(九州局)

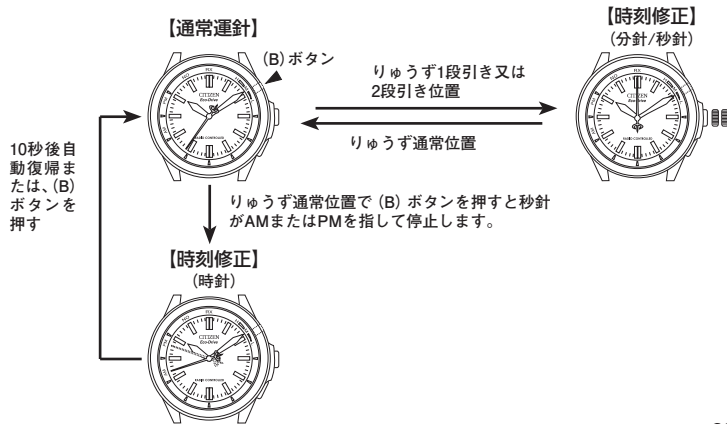
日本国内の標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。標準電波の送信状態の確認は、情報通信研究所機構・日本標準時プロジェクトのホームページ(http://jjy.nict.go.jp/) をご覧ください。

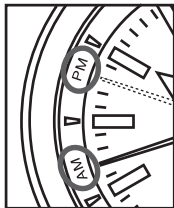
標準電波は、人体や医療機器には一切影響がありません。

日本に2カ所ある標準電波送信所から送信される標準電波は、10万年に1秒の誤差と言われるセシウム原子時計をもとに「独立行政法人情報通信研究機構」により管理運営が行われています。

4. 手動による時刻の合わせ方

この時計は海外など電波が届かない地域でご使用する場合に、手操作で時刻を合わせることができます。尚、時計を正しく操作するためには、腕からはずして行ってください。
電波が届く地域に戻った時は、強制受信を行って時刻を合わせてください。
分針、秒針の修正はりゅうず１段引き位置または、２段引き位置どちらでもできます。

りゅうず及び、ボタン操作で次のように修正状態が替わります。

A. 午前/午後表示確認の方法

この時計は､｢午前/午後を確認する表示機能｣が付いています。表示が違う場合は｢強制受信｣を行ってください。
強制受信で正しく受信ができなかった場合は、手動で時刻を合わせ直してください。

《午前/午後の確認手順》

(1) 通常表示で(B)ボタンを１回押します。
- 午前の場合は秒針がAM(42秒位置)に､午後の場合はPM(48秒位置)を指して停止します。

注意
- ここでりゅうずを回すと時針が動き時刻が変わりますのでご注意ください。

(2) 通常表示に戻すには(B)ボタンを１回押すか､または10秒間､ボタンおよび､りゅうず操作を行わないと自動的に戻ります。
- 午前/午後の確認後、受信結果を確認すると前回、受信が成功していた場合でも秒針は｢NO｣に切り替わります。

B. 時刻を修正する手順

分針､秒針の修正

《修正手順》

(1) りゅうずを１段引きまたは､２段引き位置にします。
- 秒針が正転または､逆転で基準位置(０秒位置)まで高速運針し停止します。
- 基準位置で停止しない場合は、本文の｢9. 基準位置の合わせ方｣を参照し、｢基準位置合わせ｣を行ってください。

(2) りゅうずを回して､｢分針｣を合わせます。
① 右に回す(１クリック)と､秒針が時計回りで１回転し､分針が１分ぶん進みます。
② 左に回す(１クリック)と、秒針が反時計回りで１回転し､分針が１分ぶん戻ります。
- りゅうずを連続回転 (素早く２クリック以上) させると､秒針と分針が連続運針します。
- 連続運針を停止する場合は､りゅうずを左右どちらかに回します。
- 分針に連動して時針も運針するため､秒針と分針を連続運針して時針を合わせることができます。

りゅうずを指の側面で素早く回転（２クリック）させてください。

(3) 時報などに合わせて､りゅうずを通常位置に戻してください。

時針の修正

• りゅうず通常位置で(B)ボタンを押すと、時針の修正ができます。但し10秒間りゅうず操作を行わないと自動的に通常表示に戻ります。

《修正手順》

(1) りゅうずを通常位置にします。
(2) (B)ボタンを１回押すと、秒針が午前(AM：42秒位置)または午後(PM：48秒位置)へ移動し停止します。
(3) りゅうずを回して「時針」を合わせます。
①右に回す(１クリック)と、時針が1時間ぶん進みます。
②左に回す(１クリック)と、時針が1時間ぶん戻ります。
• りゅうずを連続回転させると、時針が連続運針します。
• 連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意：時刻修正する時は、午前(AM)、午後(PM)に注意して合わせてください。

(4) これで手動による時刻合わせは終了です。通常表示に戻すには(B)ボタンを押すか10秒間りゅうず操作をせずにお待ちください。

5. 光発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。
一度フル充電すると、通常の使用状態(パワーセーブが作動しない時)では約６ケ月間時刻を刻み続けます。なおパワーセーブが作動している時は、約２年間となります。

〈この時計の上手な使い方〉

この時計を快適にご使用頂くためには、常に余裕を持って充電することを心がけてください。**充電は、文字板(ソーラーセル面)に直射日光や、蛍光灯の光を当てて充電してください。**この時計はどんなに充電しても時計が破損することはありません。

〈時計は常に充電を心掛けてお使いください〉

• 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。特に冬場は、月に1度位時計の文字板面に直射日光を当てて充電することをお勧めいたします。
• 時計を外したときも、できるだけ時計の文字板面に太陽光の当たる窓際等の明るい場所に置くように心掛けると、常に充電を続け時計は正しく動き続けます。

6. ソーラーパワーウオッチ特有の機能について

この時計は、充電不足になると表示が次のように切り替わります。
万一、充電不足で時計が止まった場合、1秒運針になるまで、充電するのに最短で約1時間かかります。毎日の充電に心掛けてご使用ください。

*1. 充電不足で停止した場合、十分光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約1時間かかります。
*2. 復活自動受信に失敗した場合は、充電不足で停止した時の時刻に戻り動き始めます。
この場合は1秒運針していますが時刻が狂っているため、強制受信または、手操作で時刻を合わせてからご使用ください。

文字板(ソーラーセル面)に光が当たらず充電不足になると

【通常表示】

【復活自動受信】

自動的に1度受信を行います

受信に成功すると
*2.

【充電警告表示】

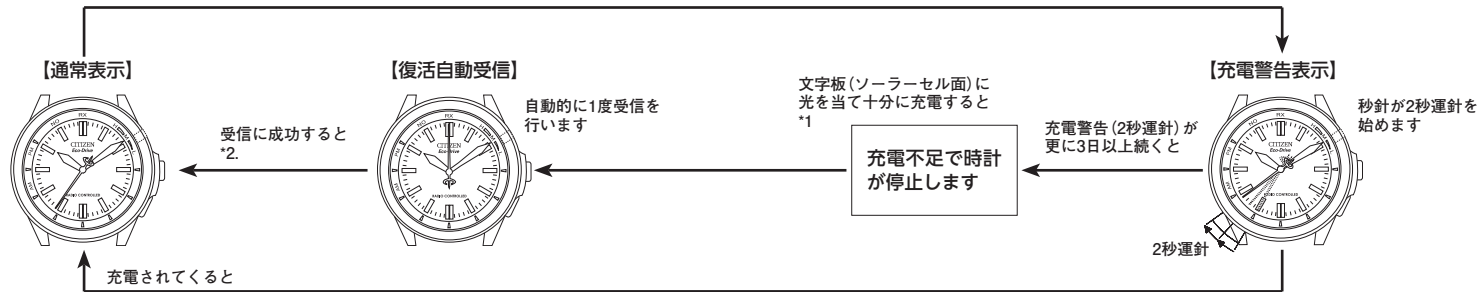
秒針が2秒運針を始めます

2秒運針

充電警告(2秒運針)が更に3日以上続くと

充電不足で時計が停止します

文字板(ソーラーセル面)に光を当て十分に充電すると
*1

充電されてくると

A. パワーセーブ機能

〈パワーセーブ〉

文字板に、光が当たらない状態が７日以上継続した場合は、時計の機能が一部止まり、パワーセーブ(節電状態)になります。

[パワーセーブ中でも以下の機能は作動します]

- 時計内部では常に時刻を刻んでいます。
- 日付は自動更新します。

〈パワーセーブの解除方法〉

ソーラーセルに光を当て発電が始まると、パワーセーブが解除されます。

- パワーセーブが解除されると各針が高速(正転または逆転)で現在時刻に戻り、１秒運針を開始します。
- 充電不足の場合は、２秒運針を始めます。十分充電し１秒運針に戻してください。

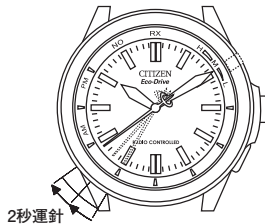
注意

- パワーセーブ作動中も定時受信を行いますが、保管環境によっては、受信できない場合もあります。パワーセーブ解除後は、(A)ボタンを押して受信結果を確認してください。受信結果が「No」の場合は、強制受信を行ってからご使用ください。
- りゅうずまたは、ボタン操作では、パワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

B. 充電警告機能（秒針が２秒毎に動きます）

ソーラーセルに光が当らず二次電池の容量が少なくなると、秒針が１秒運針から２秒運針（充電警告機能）に切り替わり充電不足をお知らせします。この時も時計は正確に動いていますが、２秒運針を始めてから約３日以上経過すると、充電不足で時計は止まってしまいます。直ぐに直射日光等を当てて十分充電し、１秒運針に戻してください。

注意

- ２秒運針しているときは、手動での時刻修正はできません。
- 定時受信、強制受信ともにできません。

C. 過充電防止機能

文字板（ソーラーセル面）に光が当たり、二次電池がフル充電になると、それ以上は充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。
そのためどんなに充電してもソーラーセルや二次電池の性能が劣化することはありませんので、安心して光を当てて充電してください。

7. ソーラーパワーウオッチ充電時間の目安

時計のモデル(文字板の色など)により充電時間は異なります。
あくまでも目安としてご利用ください。

※充電時間は連続照射時間です。

照度(ルクス)	環　境	充電時間		
		1日分の充電時間	停止状態から復活自動受信するまでの時間	フル充電時間
500	屋内照明	3.5時間	71時間	——
1,000	蛍光灯(30W)の下60cm〜70cm	2時間	31時間	——
3,000	蛍光灯(30W)の下20cm	35分	10時間	110時間
10,000	曇天	11分	3.5時間	35時間
100,000	夏の日の直射日光下	3分	1時間	7.5時間

1日分の充電時間……時計を通常運針で1日動かすのに必要な充電時間。
フル充電時間…………時計が充電不足で停止している状態から最大に充電されるまでの充電時間。

注意

フル充電後、一度も充電されないと、持続時間は約６ケ月となります。パワーセーブが作動している時は、約２年間時刻を刻み続けます。ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心掛けてご使用ください。なお、月に１度は直射日光を当てて充電されることをお勧めいたします。

8. ソーラーパワーウオッチ取り扱い上の注意

〈時計は常に充電を心がけてお使いください〉

• 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
• 時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠注意　充電上の注意

• 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので高温(約60℃以上)での充電は避けてください。

例)• 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい場所での充電

※ 白熱灯で充電するときは、必ず50cm以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。

• 車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電

〈二次電池の交換について〉

• この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり二次電池の容量が早くなくなります。定期的な分解掃除(有料)をおすすめします。

⚠警告　二次電池の取り扱いについて

• お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
• 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠警告　指定の二次電池以外は使わないでください

• この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。
他の種類の電池を組み込んでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

9. 基準位置の合わせ方

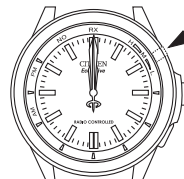
電波を受信しても時計が正しく時刻を表示しない場合は、基準位置の確認を行ってください。時計のすべての基準となる基準位置（0秒位置／12時位置）がずれている場合は、次の手順で各針の基準位置を合わせてください。

A. 基準位置の確認方法

(1) りゅうずは通常位置で、(B) ボタンを５秒以上押し秒針が高速で移動を開始したら離します。
- 各針が高速（正転または、逆転）で基準位置（0秒位置）へ移動し停止すれば基準位置は正しくセットされています。
  各針が基準位置に停止しない場合、次の「基準位置の合わせ方」に従って、各針を基準位置に合わせてください。

(2) 基準位置を表示した後、(B) ボタンを押すと、高速で現在時刻に戻ります。
または、２分以上ボタン操作または、りゅうず操作を行わないと自動的に現在時刻に戻ります。

＜各針の基準位置＞

秒針、分針、時針：0時00分00秒

B. 基準位置の合わせ方

- 基準位置確認後、続けて各針の基準位置を修正する場合は、(2) から行ってください。

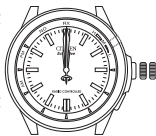
(1) りゅうずは通常位置で、(B) ボタンを５秒以上押し秒針が高速で移動を開始したら離します。
- 各針が基準位置へ高速で移動し停止します。

(2) りゅうずを１段引き位置にし、りゅうずを回して時針を12時に合わせます。
- りゅうずを連続回転（素早く２クリック以上）させると、時針が連続運針します。
  連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
- 時針を連続運針で合わせる場合は一旦11時頃に止め、再びりゅうずを１クリックずつ確実に回して時針を12時に正しく合わせてください。

⑶りゅうずを２段引き位置にし、りゅうずを回して秒針と分針を00分00秒に合わせます。
- りゅうずを回転（１クリック）させると、秒針が1秒ぶん運針します。秒針に合わせて分針が動きます。りゅうずを右または、左に回転させて、「秒針と分針」を00分00秒に合わせます。
- りゅうずを連続回転させると、秒針と分針が連続運針します。
連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

⑷りゅうずを通常位置に戻し、(B)ボタンを押します。
- 各針が高速で現在時刻に戻ります。

＊これで基準位置合わせは終了です、基準位置合わせ後は、必ず強制受信を行ってからご使用ください。

〈基準位置合わせ時のモード切り替え〉

10. 故障かな？と思ったら

《電波受信機能》

故障かな？と思った時は、以下の項目をご確認ください。

状況	確認	対処方法
受信を開始しない	• 秒針が「RX：受信準備」に移動しますか？	(A)ボタンを押し続け、秒針がRX位置を指したら、指を離してください。
受信できない。 (受信可能地域内で)	• 電波をしゃへいする物やノイズを発生する物が近くにありませんか？ • 窓から遠い場所で受信していませんか？	• 電波をしゃへいする物や、ノイズが発生する物をさけて、時計の9時位置を窓際に向け受信してください。 秒針が受信レベル位置を指すように、何度か場所や、方向、角度を変えて、受信しやすい場所を探してください（本書「上手に受信をするために」及び「受信が困難な場所について」を参照ください）
秒針がRXを指すのに受信ができない。	• まだ受信中で、秒針が受信レベル「H、M、Lのいずれか」を指していませんか？	• 受信が終了するまで（1秒運針に戻るまで）お待ちください。
受信はできるが、時報等の時刻と合わない。	• 基準位置を正しくセットされていますか？ • 基準位置を確認してください	基準位置が正しく無い場合は、本書「9.基準位置の合わせ方」を参照し合わせ直してください。

11. お取り扱いにあたって

⚠ 警告　防水性能について

- 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- 日常生活用防水時計（３気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。
- 日常生活用強化防水時計（５気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスキューバ潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計（10/20気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

防水性について

- 時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図を参照して正しくご使用ください。
（1 barは約1気圧に相当します）
- WATER RESIST（ANT）×× barはW.R.×× barと表示している場合があります。

名称	表示：文字板または裏ぶた	仕様	使用例：水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	使用例：水仕事や一般水泳に使用。	使用例：スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	使用例：空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	使用例：水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
非防水時計	――――	非防水	×	×	×	×	×
日常生活用防水時計	WATER RESIST（ANT）	3気圧防水	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST（ANT）5 bar	5気圧防水	○	○	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST（ANT）10/20 bar	10気圧防水、20気圧防水	○	○	○	×	×

⚠ 注意　人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠ 注意　使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
- 日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量に汗をかいた後は、真水でよく洗いよく拭き取ってください。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうずなど）が外れる危険があります。

⚠ 注意　携帯時の注意

<バンドについて>

- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンドは、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。

<温度について>

- 極端な高温/低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

<静電気について>

- クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

<磁気について>

- アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、磁気調理器などに近づけないでください。

<ショックについて>

- 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含有するもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

⚠ 注意　時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなることがありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたら、すぐに使用を中止して医師に相談してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

⚠ 注意　時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。
  金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いてください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

〈夜光付き時計の場合は〉

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は太陽光や室内照明（白熱灯を除く）などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合があります。ご注意ください。

12. 保証とアフターサービスについて

＜保証について＞

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

＜修理用部品の保有期間について＞

当社は時計の機能を維持するための修理用部品を、通常７年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・プッシュボタン・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

＜修理可能期間について＞

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

＜ご転居・ご贈答品の場合＞

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

＜定期点検（有償）について＞

安全に永くご使用いただくために、２～３年に一度、点検（有償）を行なってください。防水時計の防水性能は経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行なってください。部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行なう必要がある場合もありますので交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

＜修理について＞

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

＜その他お問い合わせについて＞

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

13. 製品仕様

1. 機種:H43＊
2. 型式:アナログソーラーパワーウオッチ
3. 時間精度:非受信時(電波を受信していない時)
   平均月差±15秒(常温+5℃～+35℃携帯時)
4. 作動温度範囲:－10℃～+60℃
5. 表示機能: • 時刻:時、分、秒 (時針は2分毎に運針します。)
6. 付加機能: • 電波受信機能(定時受信、強制受信、復活自動受信)
   • 受信局自動選択機能(日本標準電波専用)
   • 受信準備表示機能(RX)
   • 受信中表示機能
   • 受信結果確認機能
   • 午前/午後表示機能
   • 光発電機能
   • パワーセーブ機能
   • 充電警告機能
   • 過充電防止機能
7. 持続時間: • フル充電後、充電しないで時計が停止するまで
   :約2年(パワーセーブが作動している時)
   :約6ケ月(パワーセーブが作動しない時)
   • 充電警告表示～充電不足で時計が停止するまで:約3日
8. 使用電池:二次電池(ボタン型リチウム電池) 1個

*製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。